



京都府議会議員
おはら
ニュースレター

舞 まい ダブ Vol.25 府議会報告 My Wave

令和4年8月発行

小原 舞事務所

〒624-0913 舞鶴市上安久 223-4
TEL : 0773-77-0071 FAX : 0773-77-0072
info@oharamai.jp
<http://www.oharamai.jp/>

皆様にはおはら舞の議員活動に対しましてご理解、ご支援をいただいておりまことに心から感謝申し上げます。

コロナ禍の長期化やウクライナ情勢に伴う原油価格や物価高騰等、先行きが見通せない中、日本は人口減少や少子高齢化という課題を抱えています。25歳の頃から抱いた志である「地方の再生」という大きな命題に長期的なビジョンを持って故郷舞鶴から挑戦し、誰にでも居場所と役割があり、住み慣れたまちで安心して暮らすことができる社会を目指します。

今期は、【府民環境・厚生常任委員会の委員長】を拝命し、【魅力ある地域づくりに関する特別委員会】に所属します。引き続き、地域を歩き、現地現場主義をモットーに様々な課題に取り組んでまいります。

今後とも、ご指導のほどよろしくお願ひいたします。

京都府議会議員

小原 舞

京都府議会6月定例会にて一般質問いたしました（令和4年6月20日）

(1) 産後ケアの充実について

《質問》産後の女性を包括的に支援するためには、医師や助産師、保健師をはじめ、育児支援センターや企業等を含む様々な地域の支援者の連携が必要と考える。子育てのスタート期である産後ケアの充実が、母子の長期的な社会的・心理的健康につながると考えるが、産後ケアにおける多職種連携の必要性と今後の取組についての考えはどうか。

《答弁》医療機関や学校、さらには企業等の異業種団体と横断的に連携し、子育て支援に取り組む団体の活動を支援するなど、地域において、様々な職種の人材が一体となって妊産婦を支える仕組みづくりを進めてきた。今後も、こうした取組により、地域の様々な職種の人材や子育て支援団体等と連携した妊産婦への支援を行っていく。



「これまで一人で悩んでいたが、他の人を頼ってもいいんだと考えられるようになった」というお声もいただいています
周知方法も工夫し、支援につなげていくことが大切です。



「産後ケア」の取り組みを調査、体験してきました ^ ^

(2) 耕作放棄地対策と担い手支援について

《質問》本府の農業就業人口は、直近10年で4割が減少し、全国と比べても高齢化が進行しており、平成22年には2万3,049人だった基幹的農業従事者数は、令和12年には7,329人となり、20年で約7割もの減少となるとされているが、この状況を踏まえ、中山間地が多く耕地面積が小規模という地域特性を踏まえ、今後どのように耕作放棄地対策や担い手支援を行なっていくのか、現状に対する認識と今後の展望についてはどうか。

《答弁》具体的には、担い手の受け入れを希望する地域に対して、小規模な基盤整備等により農地を集約化し、高収益作物等を導入するとともに、「担い手養成実践農場」の制度により、住居の準備や技術指導など、受け入れから定着までの一貫したサポート体制を提供している。



(3) 災害時の避難道路の整備について

《質問》舞鶴西IC～舞鶴東IC間は、暫定2車線であり、高速道路機能を十分に発揮できず、優先整備区間にも選定されていない。早期全線4車線化は、国防・防災機能の強化をはじめ、人流・物流による地域経済の活性化等、圏域全体にとって重要と考えるが、舞鶴若狭自動車道全線4車線化の早期実現についての本府の見解はどうか。また、4車線化で得られる効果をどのように考えているのか。

〈裏面へつづく〉